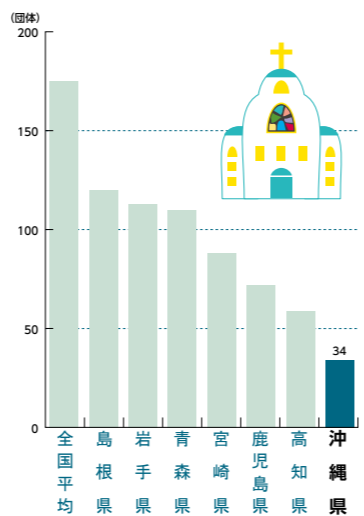


【宗教団体の数】

34 団体

(2009年 / 人口10万人あたり)



掲載日 2012年9月16日

日本の中でも特有の宗教観が根付いているといわれる沖縄。現在でも「祖先崇拜」が多く、多くの家庭に脈々と受け継がれている。また、自然のままの聖地が多く残り、他府県と比べると宗教的な建物は非常に少ないようだ。文化庁「宗教年鑑」をもとに沖縄県の宗教団体の総数をみると、481団体。人口10万人あたりに換算すると34と全国でもダントツに少ない。団体数なので、建物の正確な数ではないが、沖縄の特性を表すひとつではないだろうか。

世界遺産に登録されている斎場御嶽（セーファーウタキ）からは、神の島といわれる久高島を望む事ができる。

聖地は、癒しの場、パワースポットとして注目されているが、それも自然や祖先が分け隔て無くパワーをくれているから？聖地を訪れるとやはり神聖な気持ちになるものだ。（海邦総研／新里治史）

【町村人口の増加率】

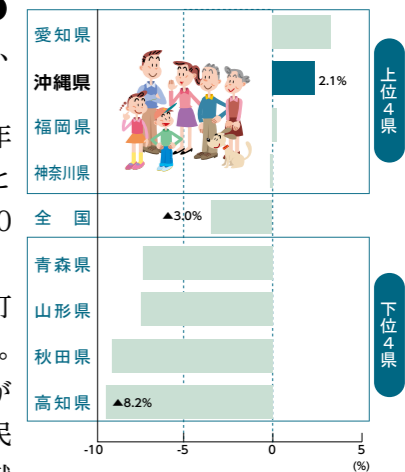
2.1%

(2010年 / 2005年)

全国的には過疎化や高齢化などで地方が疲弊しているといわれるが、県内はどうだろうか。地域の魅力を示すひとつのバロメーターである人口をみてみると、2010年国勢調査の県内町村部の人口は約31万4000人。05年調査と比較すると2.1%増加し、増加率では全国第2位だ。全国的には3.0%減少の約1190万人と、町村人口が日本の総人口に占める割合は10%以下となっている。

一方、県内の町村数は減少したものの、町村人口は22.5%と依然として高い。町村人口の割合が20%をこえる10県のうち唯一、沖縄県は町村人口が増加している。

都市部だけでなく町村人口も増加しているということは、沖縄全域が魅力ある地域ということか。沖縄地域のさらなる発展のためにも、県民として、いままで以上に住みたくなるような魅力あるまちづくりに貢献していきたい。（海邦総研／島田尚徳）

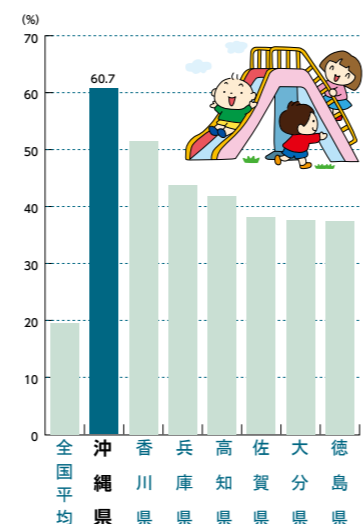


掲載日 2012年10月7日

【都市公園面積の増加率】

60.7%

(2010/2000年)



掲載日 2012年9月23日

那覇新都心の街路を散歩し、緑のある広い公園で憩いのひととき。休日の楽しみのひとつだ。都市計画法に基づいて開発された新興都市には、必ず都市公園がある。

国土交通省都市局「都市公園データベース」を基に、2000年から2010年の11年間における都市公園面積の増加率を求めた。実はこの間に沖縄県は60.7%も増えており、全国1位の増加率となっている。同時期の県民1人あたりの都市公園面積は全国平均の110%から137%へと、面積が拡大した計算になる。

美しい公園は、お年寄りから子どもまで、さまざまな人々が触れあう場でもあり、地域への愛着を高める効果もあるとか。公園はまちの価値を高めることにもつながる重要な要素かも知れない。

都市公園は人と人、緑と人の絆が結ばれる時空間。今や、沖縄の魅力ある資源と言えるのかも？（海邦総研／玉城有一朗）

【景観行政団体の登録増加率】

5.3倍

(2012年 / 2008年)

歴史の面影を残す伝統的な建物や街並みを観光資源として発信する動きが全国で展開されている。2004年に制定された景観法では、景観行政団体として都道府県が認めた自治体等が条例の制定や計画の策定等、独自の景観行政に取組むことを定めている。県内では首里城周辺の街並み、竹富町の赤瓦風景、渡名喜村集落のフットライト照明等が好事例だ。

国土交通省によると、2012年8月1日時点の景観行政団体登録数は562団体。沖縄県は19団体で全国6位だが、2008年から5年間の増加率は5.3倍と東京都と同率で全国1位となっている。

市町村の登録割合という点では、沖縄県は41市町村中19の団体登録で46.3%と全国14位だ。県内市町村の登録は今後も続くと思われるが、ブランド力ある「美ら島沖縄」づくりを目指して足並みの揃った動きを期待したい。（海邦総研／屋比久有紀）

都道府県	2012年(件)	2008年(件)	増加率(倍)
1位 沖縄県	19	3	5.3
1位 東京都	19	3	5.3
3位 秋田県	4	1	3.0
4位 石川県	6	2	2.0
4位 奈良県	6	2	2.0
6位 長野県	14	5	1.8
7位 宮崎県	19	7	1.7
8位 徳島県	8	3	1.6
全国平均	11.0	6.6	0.6

掲載日 2012年10月14日

【新築一戸建住宅着工数】

5.2戸 / 1000世帯

いずれは欲しいマイホーム。最近は～タウンというような、きれいで便利に整備された地域が増え、どこに住んでいても快適な生活ができるようになってきた。

国土交通省住宅着工統計によると、沖縄県の2011年における新築一戸建住宅着工数（1000世帯当たり）は、5.2戸となっている。うち県内11市の中では、豊見城市が9.5戸と第1位。総世帯数約2万世帯に対して、190戸の一戸建住宅が建設されたようだ。

上位地域の特徴として、豊見城市の豊崎タウン、南城市の馬天シータウンなどの新興住宅地が造成されていることがあげられる。また、うるま市は新しい道路建設に伴う周辺地域の宅地開発の進展があげられるだろう。

商業施設の充実や交通アクセスの向上は、人を呼び込む大きな魅力だ。一戸建住宅需要が停滞する中でも元気な街があるのだ。（海邦総研／中山禎）

順位	市	着工数	世帯数	1000世帯当たり着工数
	沖縄県	2,773	532,324	5.2
1	豊見城	190	20,034	9.5
2	南城	110	12,965	8.5
3	うるま	299	39,334	7.6
4	石垣	118	19,454	6.1
5	名護	149	24,753	6.0
6	沖縄	258	49,196	5.2
7	宮古島	108	21,650	5.0
8	糸満	90	19,731	4.6
9	宜野湾	137	37,233	3.7
10	浦添	136	41,862	3.3
11	那覇	366	132,128	2.8

掲載日 2012年9月30日

【企業の平均年齢】

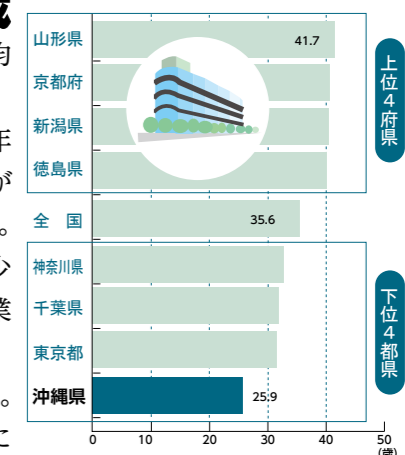
25.9歳

都道府県別人口の平均年齢が全国で最も若い沖縄県。県内企業の平均年齢は、どうだろうか。

帝国データバンク「企業平均年齢と長寿企業の実態調査」によると2012年の県内企業の平均年齢は25.9歳。人の平均年齢と同様、最も若く、全国平均が35.6歳のなか唯一の20歳代だ。最高齢の山形県と比べると15.8歳も差がある。

本土復帰後に創業した企業が多い沖縄。それに対し、戦争の被害が少ない地域や城下町・港町など古くから交易が盛んな地域では、長寿企業が多く、企業の平均年齢が高くなっているようだ。

時代の変化に対応しながら永く生き抜いた長寿企業に学ぶことも多い。また逆に若くてこれから成長する企業が増えることによっても、地域に“活気”が生まれるのではないだろうか。平均年齢の若く活力のある“うちな企業”のこれからの成長を願いたい。（海邦総研／安田ひろみ）



掲載日 2012年10月21日